

会議録

会議の名称	令和3年度第2回福津市郷づくり推進協議会代表者会議				
開催日時	令和3年9月27日(月)14:00~14:50				
開催場所	市役所別館1階 大ホール				
委員	<p>勝浦：天野 保章、荻原 哲夫 津屋崎：御厨 忠男、坂口 勝繁 宮司：坂根 康廣(欠席)、梅野 邦彦(欠席) 福間：佐伯 美保(欠席)、堤 榮二 神興：富松 亨一、山西 祐司 上西郷：高木 文明、畑 清喜(欠席) 神興東：奥 弘子、樋口 英典 福間南：石橋 和義、山本 正則</p>				
専任事務局員	<p>勝浦：花田孝信 津屋崎：大神常男 宮司：高林万里 神興：君嶋久美子 福間：廣渡策生 上西郷：吉田由美子 神興東：中里恵子 福間南：池田典彦</p>				
市	<p>原崎市長 防災安全課：羽田野課長 新型コロナワクチン接種対策室：神山理事</p>				
事務局	まちづくり推進室：石井室長、向井係長、南園				
会 議	<table border="1"> <tr> <td>内容</td> <td> <p>1. 市長あいさつ 2. 依頼・説明事項 (1) 全市一斉防災訓練の災害想定について(防災安全課) (2) 新型コロナワクチン接種の状況について(新型コロナワクチン接種対策室) 3. その他</p> </td> </tr> <tr> <td>配付資料</td> <td> <p><input type="checkbox"/>一斉防災訓練における災害想定について <input type="checkbox"/>新型コロナワクチン接種予約に関するお知らせ</p> </td> </tr> </table>	内容	<p>1. 市長あいさつ 2. 依頼・説明事項 (1) 全市一斉防災訓練の災害想定について(防災安全課) (2) 新型コロナワクチン接種の状況について(新型コロナワクチン接種対策室) 3. その他</p>	配付資料	<p><input type="checkbox"/>一斉防災訓練における災害想定について <input type="checkbox"/>新型コロナワクチン接種予約に関するお知らせ</p>
内容	<p>1. 市長あいさつ 2. 依頼・説明事項 (1) 全市一斉防災訓練の災害想定について(防災安全課) (2) 新型コロナワクチン接種の状況について(新型コロナワクチン接種対策室) 3. その他</p>				
配付資料	<p><input type="checkbox"/>一斉防災訓練における災害想定について <input type="checkbox"/>新型コロナワクチン接種予約に関するお知らせ</p>				

会議内容(要点)

1. 市長あいさつ

市長があいさつを述べた。

2. 依頼・説明事項

(1) 全市一斉防災訓練の災害想定について(防災安全課)

防災安全課が、一斉防災訓練の災害想定及び風水害対応の訓練について説明した。

(会長)

神興東地域の役員会でも、風水害対応の訓練が必要という意見が出ている。風水害対応の任意訓練をする際に、市からの協力はあるのか。

(防災安全課)

訓練で必要となる資機材や、消防署、警察、自衛隊などとの訓練を希望される場合は対応させていただきます。

(委員)

毎年大雨が降るたびに、農業用水路から浸水しているところがあるが、対策をしているのか。また、全国的に問題になっている盛土のことで、福津市内にある危険箇所を把握しているのか、対策をとっているのか教えてほしい。

(防災安全課)

道路冠水等が起こる雨水排水の件については、市長のマニフェストにも記載されているが、都市整備部が中心となって把握し、対処方法を考えていくと聞いている。

土盛りの件は、市内にも危険箇所があり、舍利蔵の師匠田や宮司の御供田がある。その中でも師匠田は土砂災害警戒区域に位置づけられており、大雨が降ったときには、崩壊することも考えられるので、近づかないように、早めに避難するように、避難情報を発信していきたい。

なお、民有地がほとんどなので、市が手を加えるというのが非常に難しい土地柄であるので、そこについてはご理解いただきたい。

(市長)

10月1日から防災安全課に危機管理企画係を設置する。危機管理企画係は、雨水に対応できるように福津市独自の計画を作成し、県国等の補助金をいただきながら、あらゆる災害に強い、特に雨水に強いまちづくりを進めていくための係である。

雨水対策は喫緊の課題で、今後、都市整備部で雨水総合管理計画(仮称)というものを策定するように準備している。計画を策定し、対応できるようにと思っている。

(2) 新型コロナワクチン接種の状況について(新型コロナワクチン接種対策室)

新型コロナワクチン接種対策室が、ワクチンの接種状況について報告した。

9月27日時点での総接種回数は、6万9119回。そのうち、1回目の接種を終えた方が、3万8896人(57.8%)、2回目の接種を終えた方が、3万223人(44.9%)となっている。

高齢者に限ると、総接種回数は3万4,039回、1回目の接種を終えた方が、1万7,237人、2回目の接種を終えた方が、1万6,802人で、9割以上の方が2回目の接種を終えている。

これは福津市の総人口に対する接種率で、12歳以上の対象人口に対する割合は、1回目の接種を終えた方は67.9%、2回目の接種を終えた方が52.7%で、2回目の接種を終えた方が半数となっている。10月末には福津市の全人口の7割を超える方が、少なくとも1回目の接種を終えることができると見込まれている。

また、9月の接種予約については、ワクチンの供給が大幅に絞られたということがあり、予約が取りにくい状況となっていたが、現在は、10月上旬までのワクチン供給の見通しが立っており、集団接種・個別接種ともに、予約枠を拡大している。10月31日までのワクチン予約には空きがあるので、16歳以上の方で接種を希望されている方がいればお声かけしていただきたい。

(会長)

若い世代の方は、ワクチン接種の副反応を気にしていると思うが、副反応についてはどのような感じなのか。

(新型コロナワクチン接種対策室)

副反応については、2回目接種後の発熱などの症状は正常な反応としてあり得るということをご理解していただいている状況である。

福岡県も、若い世代の方の接種を進めていくために特設ページを開設し、副反応に対する理解をしていただいた上で接種していただけるようになっていると思っている。

参考までに、福津市の年代別の接種率は、65歳以上は80%以上、60歳から64歳は80%、30代、40代の1回目の接種は、57.7%、30代は50.2%、20代は45.8%、12歳以上は21.4%で、随分接種が進んできていると感じている。

(委員)

配布資料の「65歳以上、基礎疾患がある、妊娠している16歳以上のかたへ」の「キャンセルが出たときに優先的にご案内します」と書いてあるが、キャンセルが出たときではなく、優先的に案内した方がいいのではないか。

(新型コロナワクチン接種対策室)

現状は、ご相談があった方には優先的にご案内している。特に妊婦さんや子育て世代の方には、積極的に保健師や助産師から声かけし、相談も受けている。もし地域で気になる方がいれば、市からご案内ができる状況にあるということをお伝えしていただくと非常に助かる。

(委員)

「キャンセルが出たときに優先的にご案内します」の「キャンセルが出たときに」は外した方がいいと思う。また、3回目の接種についてはどうなっているのか。

(新型コロナワクチン接種対策室)

3回目の接種についてはまだ正式には決まっていない。

ワクチン分科会の中では、2回目接種完了からおおむね8か月以上経過した方に対して、3回目の接種が必要であるという判断になっている。

各自治体においても、厚生労働省から接種の手順や対象者、使用するワクチンなどの通知が来る予定で、準備を進めるようにと指示があっている。

(委員)

基礎疾患がある方は重症化率が高くなると思うが、何か対応などを行っているのか。

(新型コロナワクチン接種対策室)

基礎疾患がある方は、基本的にはかかりつけ医と十分に相談をして、接種していただくのが前提である。かかりつけ医が接種医療機関であれば、そちらで接種していただくのが1番適切であると考えている。

かかりつけ医が接種医療機関でない場合は、他の医療機関や集団接種会場での接種になる。各医療機関・集団接種会場において、適切な対応ができる体制を整えているので、安心していただければと思う。

(委員)

12歳以上のワクチン接種対象者で、2回目の接種を終える目途と、対象者への接種券配布は終わっているのか教えていただきたい。

(新型コロナワクチン接種対策室)

12歳以上でワクチン接種を希望される方の2回目接種完了目途は、遅くとも11月末と想定している。

12歳以上のワクチン接種対象者への接種券は発送済みである。ただ、12歳の方は満年齢が対象になるので、誕生月の翌月に順次接種券を発送している。

(会長)

その他の項目で、自分の郷づくりではこういうことを工夫して取り組みをしているなどがあれば聞かせていただきたい。

(委員)

まん延防止重点措置や緊急事態宣言が発出されたときは、交流センターを閉館したが、閉館までの期間が短く、行事の予定が立てにくかった。

どのような基準で閉館するのか教えていただきたい。県からの通知があると思うが、早い時期に通知をいただければ、郷づくりの事業等の予定が立てやすい。

(まちづくり推進室)

閉館の基準は、県有施設が閉館になるかどうかで判断していた。

7月に福岡県独自措置として福岡コロナ特別警報ができ、特別警報が発動された時点から、近々県有施設が閉館となる想定ができるようになった。

ただ今の仕組み上、国が県を指定し、県が協議をして決定し、3段階目で市が決定するという構図になっているため、おそらくこの時期から閉館になるのではないかという予測で動くことになると思う。

今後は、予測情報になるが早めに情報を流していきたいと考えている。

(会長)

県有施設が閉館になれば、市の施設である交流センターも閉館になるのはやむを得ないということになるのか。

(まちづくり推進室)

現状では、県有施設が閉館になれば全ての市の施設を閉館するという判断ではない。例えば公園などの外の施設は一律に閉館していない。また、子育て施設の閉館は、孤立化が問題となるため、フクスタは予約制にして一部開放している。

コミュニティの施設に関しても、予約制にするという考え方はあるが、高齢者が利用するケースもあり、県有施設にならって一律閉館という基準を持ってきた。

代表者会議の場で予約制にするということも考えられるのかなどご意見をいただき、施策として必要という判断になれば、一律閉館ではないという方向も考えられる。

しかし、コミュニティ施設全体に関わってくるため、交流センターだけ開館してもいいのか、古賀市・宗像市はどのような状況で判断しているのか参考に意見を聞いてみるべきだと思っている。

(会長)

以上で審議は終わりにさせていただく。

(まちづくり推進室)

以上で郷づくり推進協議会代表者会議を終了する。